

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3577200524		
法人名	山口平成会		
事業所名	グループホーム へいせいホーム		
所在地	山口県岩国市玖珂町1340番地		
自己評価作成日	平成23年7月5日	評価結果市町受理日	平成23年10月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成23年8月11日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当事業所は病院に併設しており、急変時など迅速な対応が可能で入居後も安心して生活できる環境となっています。併設施設があるため、人の行き来があり、多くの方と関わる機会があり、事業所内外で交流することができ閉塞感の軽減を図っています。また、2ユニットの間には中庭を設けており、野菜や花など小さな畑ではありますが、入居者の方々が今までの生活スタイルを維持できるように整備しています。徒歩での買い物は、病院の売店ですが、月に1回は行事で外出するなど、外に積極的に出かける機会を作り、個々が楽しみを持てるように工夫しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は病院や高齢者施設が立ち並ぶ一角にあり、毎年行なわれる地域交流会や法人で行なう納涼祭、地区の祭りなど地域住民とふれあう機会をつくって交流されています。災害時の対応については、災害マニュアルや風水害マニュアルを基本とし、法人内の各施設間の支援体制と共に、災害時には地域の代表に第一報を入れると、連絡網を介して地域住民の協力が得られるような体制づくりもされています。法人として介護支援専門員や介護福祉士の資格取得研修を開催して資格取得の支援をされたり、段階に応じた外部研修への参加の機会の提供や法人内研修、事業所内研修を実施されるなど、職員を育てる取り組みをしておられます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見えやすい位置に大きく理念を書き出している。また、職員全員で理念を見直すことで意識統一を図っている。	「利用者本位」を基本とし、地域の中で認知症高齢者が生き生きと生活できる、優しさあたたかみのある事業所を目指すことを理念として、2～3年毎に職員全員で見直し、事業所内に掲示して、日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民を招いて、定期的に地域交流会を開催しており入居者が地域の方々と関わる機会を作っている。	年1回開催される地域交流会は、自治会を通して近隣住民に呼びかけ、利用者や利用者家族と一緒に開催されており、法人で開催される納涼祭や地区の祭に参加するなど、地域の人達と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流会で、認知症の方への接し方や、グループホームの説明などを行い、地域の人々に向けて積極的にアプローチしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全員に自己評価表を配布し、職員一人一人が外部評価を理解できるように取り組み、また、評価内容を把握することで、具体的にどのようなことが必要とされているか話し合いも設けている。	運営者、管理者、職員は評価の意義を理解しており、職員全員で、自己評価を行い、わからない項目は再度話し合い、管理者を中心に取りまとめている。外部評価結果についても共有しており、評価項目や評価内容を理解しながら、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では、毎月の運営状況を説明しており、その都度質疑応答へ対応して意見交換を行っている。感染予防の話などでは薬剤師に同席してもらいより自宅でもできる具体的なケアと一緒に学ぶなど行った。	2ヶ月に1回開催し、事業所の取り組み状況について報告し、意見交換をして、サービスの向上に活かしている。認知症ケアや感染症の知識などの啓発を行なうこともあり、法人内の薬剤師による講義などを取り入れている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月事業所の利用状況を報告することや、提出書類は直接市役所に持っていくことで、日頃から直接顔を合わせる機会を設けるようにしている。また、前回の評価での指摘事項についても直接市役所に伺い話しを聞き参考にさせていただいた。	運営推進協議会に地域包括支援センター職員が参加している。報告や相談、提出物は直接担当課に出向き、話し合う機会を持ち、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関を開放しており、特に夏場は扉自体を開けている。また法人に委員会があり、各部署から職員が参加しており、GH内だけでなく全体で身体拘束がないことに取り組んでいる。また、困難ケースがあれば委員会で相談するようにしている。	代表者及び全ての職員は身体拘束について正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。法人内の身体拘束禁止委員会で、定期的な研修会や、困難ケースについての相談をしている。スピーチロックや薬による抑制、玄関の施錠等はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一度職員会議にて虐待についてを職員会議にて話し合うようにしている。また、職員のストレスが溜まらないように定期的に外部に出かける機会を設けている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用している入居者が各ユニットにいたため、職員一人一人が制度を身近に感じることができており、また、社会福祉協議会の権利擁護担当者が定期的に面会に来ていたため、職員が直接話す機会もあった。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に直接契約の説明を行い、一度契約書も持って帰っていただき疑問などがあればその都度伺い、納得していただいた状態で契約をするようにしている。また、見学の段階でも利用料金については詳しく説明している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情などは、別書式で記録に残すことで意見や要望を分かりやすくしており、職員に把握しやすい環境にしている。また、その報告も定期的に法人代表に報告している。	苦情処理マニュアルがあり、年1回開催する家族会等で意見や要望を聞き、記録し、職員間で共有して、対応・改善に取り組むと共に、定期的に法人代表にも報告して、運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を開催しており、業務改善に力を入れている。また、業務の見直しについても法人である委員会にて報告しており、職員の意見や提案を反映して実践している。	月1回定期的に職員会議を開催し、業務の見直しや業務改善について意見を聞いており、意見は法人内の委員会でも取り上げ、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、全職員対象で職員の人事考課を実践しており、職員一人一人が他職員の評価をする機会がある。代表者や管理者の目線ではなく、全職員が評価するため、偏りがなく平等に評価されていることが反映しており、給与につながっている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	山口県が開催している介護職員の研修に参加を促すことや、法人内での勉強会にも出席するようにしており、事業所内以外でも勉強する機会を積極的に設けている。	人事考課制度を導入し職員の力量を把握しながら、法人内研修や事業所内研修、外部研修への参加の機会を提供し、職員を育てる取り組みをしている。介護支援専門員や介護福祉士の資格取得については、法人で研修会を開催して、研修を受ける機会を提供し、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会などに登録しており、定期的にGH交流会に参加させていただき、他職種や他事業所と関わる機会を作っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前訪問を行い、利用者の状況把握に努めていることと、センター方式を用いることで、今までに慣れ親しんだ環境に近づけられるように努力している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事前訪問を行い、本人だけでなく家族からも情報収集を行うように心がけている。また、他のサービスを利用している場合など、サービス提供者からも情報収集することで、家族が話しやすきっかけを作れるようしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学にこられた段階で現状の確認を行い、必要に応じて他施設や居宅介護などのサービスを勧めており、GHでも多くの施設を見学し納得できるように勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事や畑仕事を行うことで、共に助け合いながら日々の生活を過ごしている。また、畑仕事などは、入居者に指導してもらうこともあり、支えあいながら生活している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の負担軽減を考えながらも、衣替えなど面会にくる機会を作り、少しでも会う機会をつくっている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	キーパーソンだけでなく、入居者の馴染みの方へGHの広報を郵送し近況を報告しており、関係が途切れないような工夫をしている。	利用者の馴染みの人へ広報を郵送して近況報告をしたり、入居前に住んでいたところへのドライブや自宅への一時帰宅、毎月家族を招待して食事会を行なうなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	センター方式などで得た情報を元に、入居者同士で共通の話題がないか見つけ、話し始めをこちらから提供することで、入居者が孤立することなく過ごせるように努力している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調不良で入院される時も退院時にGHあてに連絡をしていただくように話しており、実際に退居後に状態が安定して再入居された方もおり、その都度家族との連携がとれるようにこちらからも密に連絡するようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用しており、一人一人の生活歴をできる限り把握し、希望や要望を聞き取るようにしている。本人から伝えることが困難な場合は、家族と相談してなるべく今までの生活に添えるような努力はしている。	利用者一人ひとりの生活歴や意向の把握に努めており、日々の暮らしの中の言葉を電子カルテに記録し、一人ひとりの思いや暮らし方の希望を把握している。困難な時は本人本位に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に事前訪問を行っており、その時に他事業所から情報提供書をいただくことで、これまでのサービス利用に至った経緯などを把握するようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	電子カルテを使用しており、毎日の生活を全職員が確認することができ、急激な変化でも経緯がわかりやすく、現状の把握に役立てている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを開催しており、入居者の状況を毎月話しあっている。また、担当者会議では状況に応じて専門職と話し合い、それを基に介護計画を作成している。	毎月1回、担当職員を中心に、リハビリ等の専門職の助言も得ながら、カンファレンスを行い、3ヶ月毎のモニタリングやアセスメントにより現状に即した介護計画を作成している。状況に変化があった場合はその都度見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテを導入しており、本人の様子や気づきなど各自が確認しやすく、また職員が担当入居者を受け持つことで、担当者が情報収集や実践結果などを纏め見直ししている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化があればカンファレンスを行い、ケアプランを見直すことで、必要な支援やサービスがないか、家族の要望に応えられるようにどうすればいいのかなど検討している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方々に慰問にきていただき、詩吟や民謡など入居者に楽しんでもらいながら、地域資源を活用して地域との関わりを持てるようにしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に病院の希望を確認しており、その上で病院の紹介を行っている。また、併設病院だけでなく協力病院の説明をすることで、家族に選択肢を多く提供できるようにしている。	本人・家族の希望を大切に、かかりつけ医や協力病院での受診を支援している。歯科の訪問診療、併設病院の看護師の協力もあり必要な医療が適切に受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	外来看護師や併設病院の病棟看護師に日々の様子をこまめに連絡し指示を仰ぐようにしている。そのため、外来看護師が事業所まで様子確認にきてくれることも多く早期対応がしやすい環境となっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎月、病院の相談員と連携会議を開催することで、病院の情報交換を定期的実施している。また、入居者の状態が不安定な場合、相談し、いつでも受け入れが可能なように相談員と医師に連携を図っている。また、入院時は定期的に情報提供してもらうことで、いつ退院しても対応できるように職員に徹底している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医と家族との話し合いに職員も同席させていただき、GHでの対応を主治医も含めて話し合うようにしている。そこで家族の希望を確認して治療方針とケア方法を検討している。	重症化した場合は主治医・家族・職員で話し合い、家族や本人の希望を確認しながら、方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	インシデント・アクシデントをこまめに提出することで再発防止に努めている。また、併設病院で初期対応や手当ての訓練を看護師の指導の下実施している。	ヒヤリハット事例や事故発生時は報告を行い、職員間で話し合い再発防止に努めている。内容によっては介護計画の中に加え注意を喚起している。法人の看護師による応急手当や初期対応の訓練で、実践力を身につけ、予告無しの緊急連絡網の試行などで緊急時に備えている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、災害について職員全員で話し合いを設けるようにしていることや、入居者も実際に避難訓練に参加し、実際の避難を想定して訓練しており、また、その結果から避難訓練の方法を作成している。	防災マニュアル、風水害マニュアルを整備し、年2回利用者も参加して防災・避難訓練を実施している。災害時は地域の代表に第一報を入れると、連絡網を介して地域住民の協力が得られるような体制がある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士で声かけして確認しあうことで、職員一人一人が気をつける環境を整備していることや、定期的に接遇についての法人で勉強会を実施している。	法人内でも接遇については、勉強会を実施しており、職員同士もお互いに声をかけ合いながら、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応に心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアプラン作成時に本人の意向を確認し、プランを立てることで職員全員が本人の希望を理解しやすく、働きかけやすい環境を整備している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の業務が特に決まっておらず、その時に入居者に聞きながらどうしていきたいか決めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は入居者自身が選択して着ている。また、整容も声かけを行い、できる限り自分で決めてもらうように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に食事会を開催し、入居者の好きな食べ物や食べたいものを作っており、ご家族を招待して皆で食事をする機会を設けている。また、準備や片付けなども入居者が率先して実施している。	法人の栄養士が作成した献立により朝・昼は事業所で食事づくりをし、夜は配食を利用している。利用者は、食事やおやつ調理・配膳・片付けなどを職員と一緒にいき、職員も一緒に食事をしている。家族を招待して定期的な食事会を行うなど工夫して、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量を確認することで、日々の栄養摂取は確認している。食事量が低下することあれば、食べたいものを提供するなどして対応している。また、家族にも協力を得て持参してもらうこともある。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。また状態に応じて家族に説明し、協力病院の訪問歯科診療を受診するなどして、口腔衛生が維持できるように努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿・排便パターンをチェックしてきおり、個人の排泄時間がある程度把握できている。そのためその時間帯でトイレ誘導しているため、汚染が軽減し、自立に向けたケアを実践している。	排泄パターンをチェック表により把握して、さりげない声かけやトイレ誘導で、排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分などをこめまに促すことで、自然排便を促す努力をしている。また、主治医と連携して内服の調整をしており、その都度状況に応じて内服介助しており、スムーズな排泄ケアができています。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に合わせて毎日入浴は可能であるが、現在は1日おきのペースで入浴を行っている。汗をかいた日やお出かけした日など、本人に確認しながら入浴介助をしている。	毎日入浴可能であるが、現在は1日おきの入浴で、本人の希望や状況にそって対応している。カセットテープが置かれ音楽を聴きながら、入浴が楽しめるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後など本人が休みたい時に休めるようにしている。また、寝具類を自宅から持ち込みしているため使い慣れた布団で休むことで安心して休息できるような環境を整備している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書を確認し、保存することで、内服している薬の作用・副作用を職員が理解しやすいようにしている。また薬の本を購入しており、より深い知識を得られるようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族に協力を得て、畑仕事をしてきた方には、愛用していた農具を持参していただいていることや、コーヒーが好きな方は、一緒にコーヒーを飲みに行くなど、一人ひとりに合わせたケアをご家族とともに実施している。	俳句・編み物・畑作り・調理など一人ひとりが活躍出来る場面づくりや、コーヒーを楽しむため併設病院の売店の喫茶を利用するなど、楽しみ事や気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者からの希望を参考にして、毎月おでかけ行事をしており、不定期にご家族にも参加していただけるような声かけを行っている。そのため、普段でかけられない場所でも積極的に挑戦するように心がけている。	併設病院の売店や喫茶の利用、散歩や買物等の日常的な外出や、家族の協力も得ながら動物園や花見等のドライブに出かけるなど外出の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物にでかけ、支払いの際は極力本人に支払いをしてもらうようにしており、計算してもらって声かけを行っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキを購入して出していたり、職員室の電話を利用して家族に電話するなど、本人の希望があればその都度対応している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂が広く、外の景色が見えやすい環境となっているため、季節感を感じやすく、少しだが畳も用意しており、馴染みやすい環境が提供できるように配慮している。	台所はオープンキッチンで、利用者が調理や後片付けに参加しやすく、自由に出入りできる食堂に面した中庭には大きな桜の木が植栽され、ナスやトマト、ゴーヤなど利用者がつくった野菜が眺められ、季節を感じる事が出来る。温度管理や採光も適切で、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが自分の場所を持っており、テレビを見る位置や読書をする位置などあり、お互いが共同空間を自由に過ごしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具類などは持ち込みのため、今まで使用してきた本人の馴染んでいるものを利用して。また、衣替えなどもご家族に協力していただきながら行っているため、本人好みのものをそのまま使えるような支援をしている。	利用者が使い慣れた寝具や鏡台、小物などを持ち込み、居心地よく安心して過ごせる居室となっている。家族の協力も得ながら衣替えを行い、本人の好みの衣服を着ることができるよう支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の視線に合わせたネームプレートの作成や、手すりの目印など、一人一人に合わせてながらも、自立できるような環境を整備している。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホームへいせいホーム

作成日: 平成 23年 10月 26日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	Ⅲ-36	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が非難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年災害について話し合いを設け、入居者とともに避難訓練を実施しているが、今後も継続できるようにする。	毎年開催月を決めることで、避難訓練や話し合いを必ず実施できるようにする。また、できなかった場合は翌月に繰り越すなど調整していくことを決めた。	3ヶ月
2	I-12	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を実施しており、業務改善など職員からの意見を参考に話し合い、結果を提出しているが、今後も継続できるようにする。	毎月開催が定着してきているので、今後は前回話し合った内容が改善されたかなど、フィードバックすることとした。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。